

● 世論 一般

▲ 衛生學的窳窳たる淑女

無學な我には、「窳窳たる淑女」など申す六かしい字義の如何は、固より知りませぬけれど、兎に角之を我流勝手に解釋すれば、「身も心も美しく、それで、何となう奥床しい所のある善い女」といふ義ではありませんまいか、果して然りとせば、眞に衛生を實行する人の、必ず其域に達せらるゝは言ふまでも無いと余は思ふ、然れば左に其次第を列記して見ませう。適度の運動——頰は瘦せこけて、四肢は火箸の如くに細く、肋骨は一本々々透いて見ゆるやうな身體。又はテブ肥りに肥つて、鼻は謙遜、肩は傲慢、腿は臆擗するといふ如き姿は、兩者何れも醜いものではあるが、併し斯うなつた理由を、一々穿鑿して見ると、適度な運動を怠つた事が、大なる原因を作つてゐるのである。滋養食物——適度な運動をしてゐても、滋養食物の供給が不足、又は過多なれば色艶の悪いコセ／＼したる皺膚にならずんば、脂肪沈着して、これ亦テブ肥りになる

ものである。

光線と空氣——滋養食物を取り、適度に運動してゐても、太陽の光線と、新鮮の空氣とに觸れぬ人は精神沈鬱になるのみならず、身體の發育も亦妨げられ、窳窳たる姿とはならぬものである。

沐浴——沐浴を怠る人は、種々の皮膚病を發し、玲瓏たる肌とならぬは言ふまでもなく、様々な病氣も起るものである。

早寢早起——「蚤に起き夜に寝ぬよ」と、昔より東洋の學者は教ふるけれど、これは野蠻な習慣で、爽快なる精神は太陽に依て興奮せらるゝものなれば、夜は何事もせずに可成早く寢れ、太陽の地平線上に上るを度とし、衾を蹴て起れば、身心共に活々として窳窳たる淑女となるの第一着である。

惰斯う述べ立ると、唯身體上の發達を論じたばかりの如くに有るけれど、決してさうではない、彼の僻根性・嫉妬・虛榮心・沈鬱・不性などの惡徳は大抵ホステリーの女に有つて、其のホステリーの的は元來腦や子宮の故障、月經の不順等から起るものなれば、眞に衛生をさへ實行せば、身も心も自ら美しくなること疑ふ可からざる眞理である。

更に繰返せば、眞に衛生を實行すると筋骨

瘦せもせず、テブ太りもせず顔や肌の色も艶々として滑かに、髪は黒々として濃く、脊は曲らず、齒は白く、眼は涼しく口元締り、精神は愉快になつて物に倦まず、記憶は強くなつて知識進み、清潔秩序の二徳は自ら備り、怒らず卑屈ならず何時もニコ／＼と其良人に對すれば、之をこれ窳窳なる淑女と言はずして何ぞや、彼の朝寝・夜深・間食・不運動・唯一室にのみ閉籠勝の娼妓藝者は其始美なるが如くにあつた者も、次第に姿形も卑しくなつて、遂に見る影も無き捨弱となるは人知るや知らずや。されば容貌美ならんと欲せば衛生を實踐し給へ、精神美ならんと欲せば衛生を躬行し給へ、嗚呼窳窳たる淑女は君子の好逆（丁）

（愛國婦人）

▲ 文部大臣 是女子大學の卒業式に臨み女子教育に關し演説せり左に記するは其一節なり。元來男女は性の異なるが如く其本分も異り従て教育の方針も異らざるべからず女子の教育は其本分なる良妻賢母を作るにあり然るに動もすれば女子に、教育學問の必要なるを誤解して女子と男子と同じく學問によりて社會に立ち獨立の事業をなすを

最上の目的と心得るものあり女子も特別の事情あるものは例外なるも一般の本分としては人の妻となり母となりて家政を司り或は子女を教養するとは古今東西同じ歐洲諸國にては生活の程度高まりたる結果として婚姻し能はざる子女多きを來せり此等の女が獨立して生活する専門の職業を求むる有様となり又教育の普及と共に學問技藝を以て世に立つ例外者も出でたり執れにもせよ特別の例外にして一般の標準となすに足らず余は一概に女子に技藝職業を教ふるを非認するものにあらず婚姻を妨げず又結婚後も従事し得べき技藝職業を授くるは必要なり歐米には前述の事情よりして獨立して専門の職に従事するものもあるもその事情なき所に此標準を以てせば教育の結果却て女子を意外の不幸に陥らしむるも知るべからず教育者間には斯る間違のなからんも例外なる女の學者又は事業家が出れば自然世間にて賞譽し又新聞紙の如きも之れを歓迎すべし如き有様なるより妙齡の女子が本分を恒れ學問事業を目的とするに至るものなしとせず教育に従事するもの深く此の弊の矯正に勉めざるべからず

▲女學生と氏名 在來我國にては一般に氏名の文字を輕視せしが女子氏名の文字の亂用殊に甚しく、各學校にて生徒の氏名を書込む際、名前の判然せぬもの至つて多く常に混雜を來すといへり、例令はリク子といふに陸子、利久子等種々ありて一定せず、又文部省の檢定試験受験者中願書に記したる名と戶籍の謄本寫と全く異なるが多く實際を言へば今時の女學生に對つて貴女の名はとう書きますかと質問して、夫れに確答し得るもの殆んど一人もなしといふことを得べく、此程も某女學校の卒業生にて何々千代と云へるあり、某紳士と結婚しイザ戶籍の轉送となるや、何々ツヨと謄本に記しある爲め、縁談に故障を生じたる奇談もあり、女子高等師範の助教授に矢田部ジュンと云ふ人あり、女子英學塾の英語教師に矢田部順(矢田部理學博士の未亡人)と云へる人あり、前者往々にして漢字の順を用ゆる爲め、人は兩婦人を同一の人と思ふことあり、かゝる例は敢て珍らしき事ならねど、要するに自己の名前を判然と書く

(教育時論)

▲誤認されたる育児

(醫學博士緒方正規氏談片)

牛乳は其需用年一年に増加して今や寒村僻

地にも之が供給を見るに至りしは大に喜ぶべき事にして尙ほ益々之が飲用を奨励すべき也然れども乳兒の養育に母乳よりも牛乳の方優れる如く誤解して態々母親の乳を興へずこの牛乳を用ゆる者少からず之れ甚だしき非がことに於てボク氏の統計によらざるも其死亡數は母乳養育に比して十七倍の多きに達せり故にウルツカルトナ等の諸氏は説をなして(一)哺乳は反つて産後の肥立をたすくると(二)母乳にて育てる小兒の滿一年に達するものは牛乳其他の人工營養に比して九倍の多きに居ること(三)發育不充分の小兒は母乳ならでは助かる見込なきこと(四)哺乳兒は三時毎に左と右の乳房を交互に與ふること(五)授乳は生後六ヶ月以上九ヶ月迄を限りとし其以上は哺乳の必要なきこと(六)乳を離すには暑さの砌りを避け且つ漸次に他の食物を與へ母乳と交換すること(七)母乳不足の場合にも有りたげの乳を興へて不足だけを他の營養物にて補ふこと(八)母乳の得られざる時初めて止を得ず不充分なる代用品中上位を占むる牛乳を用ゆべきなれば異物の混和せざる全乳を撰び充分の消毒を行ひて後之を興ふること云々とあり之に鑑みては乳兒の養育には母親の乳を第一とし次いで乳母の乳を求め若し之を得られざる場合には始めて牛乳を攝取すべきにて有りあまる母の乳をも廢して牛乳營養をなすは寧ろ咄ふべきの誤認とすべし

(婦人衛生雜誌)